

研 修 報 告

平成15年度研修の概要

当研究所では毎年農林水産省の行政官や都道府県の農政担当職員を対象にした研修を実施しております。この度（5月～6月）実施した研修の概要および研修生の感想をご紹介します。

経済関係企画職員研修^(注)「基礎コース」[平成15年5月27日(火)～6月6日(金)]

農林水産省において経済関係行政の企画調整にあたるべき中堅職員に対し、農業経済に関する基礎知識および応用知識を習得させることを目的とした研修です。

今回の基礎コースでは、応用経済学を学ぶための基礎固めを目的とし、ミクロ経済学を中心とした基礎的な理論の講義を集中的に実施しました。この他に別途「個別課題コース」として応用経済学のテーマを設定して講義を実施する研修もあります。

講 義 一 覧

講 義	講 師	講義数
ミクロ経済学	茂野 隆一（筑波大学）	16
マクロ経済学	林 岳	10
公共経済学	矢部 光保	8
農業経済学	伊藤 順一	6
金 融 論	清水 純一	3
特別講義「ODAと農業開発」	本郷 豊（国際協力事業団）	2
講義数合計		45

注：1講義は1時間。

経済関係企画職員研修（基礎コース）を振り返って

経営局経営政策課 野村 直



私は、5月27日から6月6日までの日程で、農林水産政策研究所で行われた経済関係企画職員研修の基礎コースを受講した。9日間に及ぶ研修期間を振り返り、率直な感想を申し上げますと、研修内容は高度であり、また、多くのカリキュラムを学ぶことができ、更に、実際にODAの農業開発に参加された方の体験談を聴くことができ、緊張感と新鮮味をもって研修日程を終えることができたと思う。

注：この研修は、「基礎コース」と「個別課題コース」の2コースを実施しております。

今回の研修で私個人が最も関心を寄せていたのはミクロ経済学であった。マクロ経済学と比べてあまり世間で注目を浴びることの少ない分野ではあるが、本来、個人単位の経済活動と密接に繋がっており、それを学ぶ機会を得られることは貴重な経験であると考えていた。講義は研修前半に集中しており、短期間にボリュームの多い講義であったが、非常に有意義であったと思っている。

しかしながら、今回の研修を自分の反省を含めて総括すると、自分自身が満足できるレベルで頭の中に整理できなかったことである。恐らく、研修終了時点でテストでもされたら及第点に遠く及ばなかったと思う。それゆえに、研修終了後も少しずつではあるが研修中に配布されたテキストや資料を眺め、理解を深める努力は行っている。今回の研修を、業務の糧とするためには、今後も日々努力を重ねていかなければならないと思っている。

最後に、今回の研修に当たり、懇切丁寧に講義をいただいた講師の方々、研修の運営にご尽力いただいた研修課をはじめ政策研究所の皆様、また、研修の参加に当って配慮いただいた職場の皆様には感謝を申し上げる次第である。

「ミクロ経済学」の講義を終えて

筑波大学農林学系助教授 茂野 隆一

エッジワースのいったいどこがエライのですか？

厚生経済学の第一命題を説明しようと、ボックス図を描いてパレート最適の概念を紹介したときに受けた質問である。一瞬絶句した後に、しばし考え込んでしまった。基礎的な教科書に名前が載るくらいだから偉いものには違いないが、どこがどう偉いのだろう。たしかにテキストで説明されている彼のボックス図は極めてシンプルであり、学問的な深遠さなどは伝わってこない。本来ならばそこでエッジワースの一連の業績を挙げ、彼の学説史上の位置づけや人となりを話せばよかったのだろう。しかし私には彼が20世紀初頭にイギリスで活躍した経済学者だということくらいしか知識がなく、どう偉いかについての確な説明はできずじまいであった。

「制度化」された経済学、特にミクロ経済学の教育の現場においては、理論の背後にある思想や時代背景について、特に触れようとしない傾向にあると思う。体系的に整理された理論を教えるには、その方が効率的だというのはわかるが、大事なこともそこから抜け落ちているのではないかと危惧する。

だからというわけでもないが、いま通勤電車の中でナッシュという数理経済学者の伝記を読んでいる。映画「ビューティフル・マインド」の原作となったことで有名な本であるが、ラッセル・クロウが演じる純粹無垢なナッシュとはまったく異なり、傲慢で自己中心的な天才科学者の姿がこれでもかという筆致で描かれている。ゲーム理論に興味のある方に一読をお薦めしたい。ただナッシュのどこがエライと聞かれても、答えに窮するとは思うのだが…。

都道府県職員経済研修 [平成15年5月12日(月)～23日(金)]

都道府県の農政担当職員を対象に、平成13年度から実施しています。

今回の研修では、業務に直接結びつくような農政、経済一般の実践的な課題を中心に講義を実施しました。

講 義 一 覧

分 野	講 義	講 師	講 義 数
概 論	農政講話	篠原 孝	1
"	日本農業概論	嘉田 良平	1
"	農業白書入門	加藤 勝 (大臣官房)	1
構造問題	地域活性化分析の手法と応用	橋詰 登	1
"	人口問題と農業・農村	松久 勉	1
"	新規就農と支援方策	江川 章	1
フードシステム	食品産業論	薬師寺 哲郎	2
"	農産物流通論	小林 茂典	1
"	野菜の経済問題	香月 敏孝	1
農 協	農協概論	両角 和夫 (東北大学)	1
リスク	リスク・コミュニケーション入門	西尾 健・佐藤 京子	2
"	新しい食品安全行政と農業への影響	中嶋 康博 (東京大学)	1
環 境	農業と有機性循環	合田 素行	1
"	環境の経済評価	矢部 光保	2
手 法	産業連関分析入門	吉田 泰治	2
国 際	経営安定化対策の動向	吉井 邦恒	1
"	国際農業交渉と日本農業	渡部 靖夫	2
"	アメリカ農業入門	立川 雅司	1
"	中国農業入門	池上 彰英 (明治大学)	1
講義数合計			24

注：1講義は約2時間。

平成15年度都道府県職員経済研修に参加して

沖縄県農林水産部農政経済課 家坂 正光



研修カリキュラムには、「これを学んでもらいたい」とのメッセージが込められているはずである。私自身がそれをどう受け取ったのかを述べたい。それは、「農業のみに拘泥するな、それを取り巻く社会・経済構造の変化や環境に目を向けよ」であり、さらには「国内農業だけに目を奪われるな、国際的な情勢変化に敏感たれ」であったと思う。

まことに意味“深”なメッセージである。納得できるようで、実は容易には納得しがたいのである。「消費者に軸足を移した農林水産行政」と「農林漁業者のための農林水産行政」とは何が同じで何が異なるのか。「経済」と「環境」の矛盾はどう止揚できるのか。国際的な動きと我々の眼前にある農業・農民問題をどう橋渡しできるのか。とにかく分からないのである。

そこで居直ることにした。きっと講師の先生方も問題を解けていないのだと。解けてい

ないからこそ荒削りのデッサンのような処方箋が提示されたのだと。そして「おまえらの頭で考えろ」ということこそが、研修の最終メッセージであったのである。

いずれにせよ刺激的な2週間であった。今後とも、多くの都道府県職員が参加し、「講師と激論を交わすようなことができたらもっといい」と思っている。

食品の安全性とリスクに関する講義を終えて

東京大学大学院助教授 中嶋 康博

5月13日の都道府県職員経済研修において「新しい食品安全行政と農業への影響」と題してお話をさせていただきました。

ご承知の通り、6月には食品安全基本法をはじめとする食品安全に関する数々の法律が制定、改正されて、わが国の新たな食品安全行政が再編され再出発したところです。そこで都道府県職員の方には、次の2点に留意しながらお話しさせていただきました。

第1に、食品安全政策が加工食品だけでなく、生産の現場を含めたフードチェーンを広く対象とするようになったことです。これは「農場から食卓まで」として概念化されています。現場では、今まで以上に農業分野における安全対策の意義を意識していただく必要が高まっています。

第2に、食品安全・衛生行政において、国と地方自治体の役割分担がより明確化されたことです。このことについては95年の食品衛生法改正でも大きな制度改革がなされたわけですが、今回はさらに二つの要素が加わりました。一つは、新たな食品安全行政の基本に採用された「リスク分析」の中で、国と地方自治体が組織や機能のどの部分を担当すべきかを明らかにする必要があること。もう一つは、農産物や食品の取引が活発化していて、事業者のより積極的な安全衛生対策が期待される中で、現場に近い地方自治体の役割がますます重要になってきたことです。

研修に参加された方々はもとよりそのことをよく理解されていて、意欲的に講義に参加していただきました。質問をいただく中から私も多くのことを学ぶことができました。心より感謝申し上げます。

【付 記】

今回外部講師と受講者に感想文を寄稿していただいた研修のうち「基礎コース」は今年度から新たに導入されたものであり、都道府県職員経済研修は従来行政官対象の研修に参加する形で実施してきたものを分離・独立させたものである。両研修とも2週間当研究所の研修棟で集中的に実施された。ハードなカリキュラムをものともせず熱心に勉強をし質問をする受講生の姿をみて感服させられた。また講師もほとんどは研究所の研究員が担当した。教えることにより得られたものも多かったように思われる。

(清水 純一)